

[千葉県] 市川市立塩浜学園【義務教育学校】

1. 学校・市町村概要

- 教育目標：ふるさとを愛し、自ら夢を持ち、心豊かでたくましく生きる
児童・生徒の育成 ～ 人をつなぐ 未来へつなぐ ～
- 所在地：（前期課程校舎）千葉県市川市塩浜4-5-1
（後期課程校舎）千葉県市川市塩浜4-6-1
- 児童生徒数（H29. 5. 1時点）



学年	前期課程								後期課程					前後期計
	1	2	3	4	5	6	特別支援学級	計	7	8	9	特別支援学級	計	
児童生徒数	29	27	18	22	24	35	0	155	59	67	67	0	193	348
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	2	2	2	0	6	12

- 市川市概要：〔人口〕483,199人〔学校数〕小学校38校、中学校15校、義務教育学校1校

2. 導入経緯

- ・平成22年度 塩浜小学校・塩浜中学校の小規模化課題解決に向けての審議
- ・平成25年度 塩浜小中一貫校設置検討委員会の発足
- ・平成26年度 塩浜小中学校プロジェクト会議・塩浜小中一貫校開校準備委員会の設置、地域説明会開催
- ・平成27年度 小中一貫校「塩浜学園」開校、地域説明会開催、塩浜学園運営委員会の設置
- ・平成28年度 義務教育学校「市川市立塩浜学園」開校、地域説明会開催、塩浜学園学校運営協議会設置

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

- 義務教育学校として、義務教育9年間の豊かな「学び」と「育ち」をつなぎ、系統性・連続性を重視した教育を行うとともに、小規模校のよさを十分に発揮できる学校を目指す。

形態・施設

- 施設隣接型

- 前期課程校舎（小学校校舎）に第1学年～第4学年
後期課程校舎（中学校校舎）に第5学年～第9学年
- 平成32年度に施設一体型校舎が完成予定



※ 前期課程校舎



※ 後期課程校舎

教職員体制

- 校長：1名配置 ● 教職員：兼務発令なし
- 小中一貫教育コーディネーター：指名あり

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる行事

- 教育課程の特例：「塩浜ふるさと防災科」 [→ 次頁へ](#)
- 区切り：4-3-2
- 行事：2分の1成人式（第4学年）

教科担任制・教員の乗り入れ

- 教科担任制：第5、6学年で一部教科担任制（国語科〔書写〕、算数科、理科、音楽科、体育科、外国語活動）
- 乗り入れ：後期課程教員が前期課程の算数科、理科、体育科、外国語活動の授業に乗り入れ

児童生徒の異学年交流

- 縦割り清掃（第1学年～第9学年による縦割りグループ、学期に1回、年間3回）
- 委員会活動（第5学年～第9学年が一緒に行う）
- 合同給食（第1学年～第9学年による縦割りグループ、年間2回）
- 部活動（第5学年から参加可能）

市町村教育委員会等による支援

- 塩浜学園に対する教育課程編成についての調査・支援
- 塩浜学園に対する独自の新設教科「塩浜ふるさと防災科」の提案と支援

カリキュラム編成の基本的な考え方

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9
教育課程の区分 4-3-2制	前期課程 (小学校学習指導要領)					後期課程 (中学校学習指導要領)			
	Sブロック (start/small) 基礎期			Mブロック (middle/medium) 充実期		Lブロック (last/large) 発展期			
校舎	前期課程校舎 (通称 前期校舎)					後期課程校舎 (通称 後期校舎)			
指導形態	学級担任制					教科担任制			

小中一貫教育の核を位置づけるにあたり、教科等の系統性・連続性の十分な理解の上に、教育課程の特例を活用して、新たな教科等を設けることが考えられます。

塩浜学園では、地域に誇りや愛着を持った思いやりのある豊かな心と、自主的に問題解決を行う、たくましく生きる力を育成することを目標として平成27年度に「塩浜ふるさと防災科」を設定しました。

● 「塩浜ふるさと防災科」とは

各教科・領域等で身に付けた力を活用して、質の高い学びを創造する教科として、「ふるさと」に関わる内容と「防災」に関わる内容を学びます。9年間を貫くカリキュラムとして次の4つの「推進の視点」で、保護者や地域の方々との協力を得て、連続性・系統性を重視して取り組んでいます。

【推進の視点】

「ふるさと」に関わるもの

- A 人間としての生き方に迫る
- C 地域への理解と愛着を深める

「防災」に関わるもの

- B 防災リテラシーを身に付ける
- D 科学的理解を深める

● 「塩浜ふるさと防災科」の目標

ふるさと塩浜の歴史や自然環境に触れて理解を深めたり、自然災害発生を想定し、それに備えて地域の方々との協力しながら自ら考え自ら進んで活動したりすることで、地域に誇りや愛着を持った思いやりのある豊かな心と、自主的に問題解決を行う、たくましく生きる力を育む。

● 年間授業時数

第3学年～第9学年 各75時間

総合的な学習の時間 70時間 + 特別活動 5時間

例えば第5学年では、次のような「ふるさと」に関わる実践と「防災」に関わる実践に取り組み、A～Dの4つの推進の視点を基に地域や異学年と関わりながら計画的な取組をしています。

● 第5学年「塩浜の生物と環境～嵐潮ひかる海原に～」 ※「ふるさと」に関わる実践

実際に船に乗って海の様子を観察し、そこから生まれた課題や疑問を基にテーマを決め、計画を立てて調べていく学習です。環境問題の原因や、東京湾のよさについて調べていく中で、東京湾を守りたいという思いを抱かせ、最終的には、調べたことを多くの人に発信し、実際に東京湾の自然を守る取組を行います。「三番瀬」の生き物たちを守ろうと活動している人々と交流し、より地域への愛着を深めていきます。



<海からふるさとを眺める体験>



<企画を友達にプレゼン>

● 第5, 6, 7学年「いざという時何ができる“塩浜地区の災害への備えを調べよう”」 ※「防災」に関わる実践

「塩浜地区の災害への備え（未来）」について、テーマ別に分かれリサーチし、発信する学習です。導入として、地域の方から東日本大震災時の塩浜の被害状況や塩浜地区の土地の特性を聞き、「自分事」としてテーマを考えるきっかけとします。リサーチの際は、「3.11など今までに起きた災害の被害状況や取組（過去）」や「今の塩浜地区の様子（現在）」について、体験談を聞いたり、アンケートを取ったり、自分の足で歩いてみたりする体験を通して「自分たちの（塩浜）地区に必要な備え」を見つけます。



<地域に向かいでのインタビュー>



<異学年での成果発表>

5. これまでの成果と課題、今後の取組

「塩浜ふるさと防災科」の意識調査において、A～Dの「推進の視点」の平均から、どの観点も平成27年と比べ高まっていることが分かります。特に、B①「災害への問題意識」の平均が0.4ポイント、C①「地域のよさを守ろうとしている人々を知る」の平均は0.4ポイント向上していることも分かりました。このように、学校や地域の実態に合わせた教科を独自に設定し、小中一貫して取組を工夫することで、子供の学ぶ意識を高めることが期待できます。

- A ①他学年や地域と交流・連携
- A ②豊かな心
- A ③表現力やコミュニケーション力
- B ①災害への問題意識
- B ②災害時の行動力
- C ①地域のよさを守ろうとしている人々を知る
- C ②地域への誇り・愛着
- D ①他教科との関連を生かして学ぶ
- D ②災害の種類とメカニズム、対策への理解

（評価平均） 「塩浜ふるさと防災科」の意識調査

